

報道関係者 各位

鳥取県におけるオセルタミビル(商品名:タミフル)耐性を示す

新型インフルエンザウイルスについて

鳥取県から、タミフル耐性を示すH275Yの遺伝子変異を持つ新型インフルエンザウイルスが分離され、薬剤感受性試験により薬剤耐性が確認されたとの報告がありましたので、その概要について、別紙のとおり、情報提供します。

資料提供	
平成22年2月23日	
担当課 (担当者)	鳥取県新型インフルエンザ 対策本部(健康政策課・石田)
電話 (内線)	0857-26-7153 (7153)

抗インフルエンザウイルス薬(タミフル)に耐性を示す新型インフルエンザ
ウイルスの確認について

県衛生環境研究所では、タミフル耐性ウイルスの出現を監視するため、定期的にタミフル耐性遺伝子の確認検査を実施していますが、県内の新型インフルエンザ患者から分離された新型インフルエンザウイルスから、タミフル(オセルタミビル)耐性を示す遺伝子が、本日、国立感染症研究所で確認されましたので、下記のとおりお知らせします。

記

1 確認の経緯

- (1) 2月10日(水)に、県衛生環境研究所において10株の分離ウイルスについて遺伝子解析を実施し、そのうち1株についてタミフル耐性遺伝子(遺伝子変異)が確認されました。
- (2) 分離ウイルスを国立感染症研究所に送付し、同所において詳細な薬剤感受性試験を行ったところ、本ウイルスは、タミフル(オセルタミビル)に耐性、リレンザ(ザナミビル)に感受性であることが、2月23日(火)に確認されました。
*参考 耐性: 薬剤に対して抵抗力を持ち、薬効が効きにくくなること
感受性: 薬剤が有効に作用すること

2 患者の経過等

- (1) 患者: 鳥取保健所管内在住 9歳 男性
- (2) 基礎疾患: なし
- (3) 経過

平成21年12月17日夜	37.4度の発熱
12月18日夕	3.8度台の発熱、咽頭発赤、咳があり医療機関受診 迅速検査でA型陽性 ウイルス用検体(鼻汁)を採取(投薬前) リレンザを処方
12月19日	朝は37度台、夜は38度台の発熱
12月20日	解熱
- (4) 家族等の状況
患者のほか兄弟2名が、新型インフルエンザと診断され、2名とも平成21年12月15日よりタミフルを服用し、解熱。

3 その他

- (1) 県衛生環境研究所では、今回の10株を含め新型インフルエンザウイルス30株について、遺伝子解析を実施しているが、タミフル耐性遺伝子が確認されたのは今回が初めてです。
- (2) 全国で、タミフル耐性ウイルスの確認は、2月22日(月)までに48例の報告があります。
- (3) 厚生労働省によると、タミフルに対する耐性を持つ遺伝子変異は、ウイルスの病原性には直接影響を及ぼすものではないとされています。

(参考)

- タミフル耐性ウイルスであっても、リレンザ等他の抗インフルエンザ薬は効果があります。
- 鳥取県内において、第7週(2月15日~21日)の定点当たり患者数は1.62と減少してきましたが、流行は継続しています。
手洗い、うがい、咳エチケット等の感染予防策の徹底や新型インフルエンザワクチンの接種により、かからないことが大事です。